



開明6年生が福祉ひろばで地区のお年寄りと交流
 総合の時間に制作した
 映画上映を通して



子どもの心に火をつける
 開明小学校6年1組
 担任 麻和 正志

私が小学校で総合的な学習の時間に毎年制作してきた映画と松本市のふるさとCMがそれぞれ16作品となりました。いずれも好評で、昨年度開明小学校5年1組が制作したCMは長野朝日放送のコンテストで「市長会会長賞」に選ばれ、中篇映画「シンデレラXIII」は芸術館上映での評判を受け、7月に松南地区福祉ひろばで上映し大変好評でした。

映像制作では、児童が演技者と撮影現場を支えるスタッフの一人二役になって仕事を担います。演技の仕方や表情を友に示す監督、無数のコードをつないで光を当てる照明係、場面に必要な物を学校中

から集める小道具係、怪人の投げるクモの糸を用意する特殊効果係：等々一コマを撮影するために、子ども達は想像力をつる稼働して「客に自然に見える」表現を追求します。映画の中とはいえ、想像の世界を創り出す活動は大変魅力的なものでしょう。

映画制作は長丁場に渡ります。暑くても寒くても役者やスタッフは声も漏らさずに撮影に集中し続け、何度も撮り直しに耐えなくてはなりません。きつと子ども達の「完成させ、いい作品を観たい」との強い願いが集団を繋ぐのでしよう。次第に教師が説明をせずともセットができあがり、撮影するだけになっていく時も増えてきますし、阿吽の呼吸で各々の係が連動していく姿はまるで本物の映画

チームのよう。撮影で「OK」がでるたび、拍手が自然と湧き起るのも活動の醍醐味です。映像づくりの学習を通して「自分で考え問題を解決していく力」「興味をもち、自ら探る力」「友と協力して最後まで成し遂げようとする精神」など培うことに成功してきた手応えを感じております。なにより他の場面でも「自信をもって堂々とできるようなって来た」と子ども達が自らの成長を認めることは本当に嬉しい姿です。

以前中日新聞社の「教育賞」をいただいた際、社長さんからのメッセージに「よい先生は教え方がうまい。しかしそれよりよい先生は子どもに寄り添ってくれる。本当に素晴らしい先生は子どもの心に火をつける。」とありました。映像制作活動はまさに彼らへの導火線なのかもしれません。これは小学校の一つの学習モデルとしての挑戦でもあります。是非これからも応援をお願いします。



松南地区公民館
 夏の文化祭について
 利用者の会
 会長 原 雅敏

私も利用者の会は、公民館を利用してサークルや団体が横のつながりを持ち、お互いの声を反映させ、率先して公民館活動に参加していくことを目的としています。一番大きな公民館活動は毎年行われるなんなんフェスタ(文化祭)ですが、活動をより一層活発にしていこうと、夏の文化祭を7年前から行っています。

夏の文化祭は7月初旬から8月初旬までの約一ヶ月に渡る長期文化祭です。日々努力してきた作品の展示や、活動の様子を直接見学していただく体験会もあります。夏の文化祭はまだまだ生まれて間もないので、これから色々なご意見を参考に育てていきたいと思っています。

松南地区の皆様方とのふれあいを深めていくためにも、夏の文化祭を有意義なものにするために更に活動を活発にしていく所存です。松南地区の皆様方には是非とも来年の夏の文化祭にご来館いただき、ご意見等をお聞かせ頂ければ幸いです。

本年度は、作品展示7と体験会5の利用団体が参加しました。参加団体の方から会の成り立ちと活動への思いを寄せていただきました。



▼さんさく会 荒田 直

「私達は、シニア大学37期生が集まり立ち上げました。自分に・人に・社会に3つの花を咲かせたいとして名付けました。社会に貢献・健康増進・創作実技を通してお互いの親睦を図ることを目的に、なんなん広場を中心に活動をしています。そして、開明・鎌田・豊科南・穂高西の小学校と信明中学校の授業の手伝いと各地区児童館等への訪問をしています。

日々の生活の中で、また人との交流の中で、時間の過ぎるのがとても早く感じます。皆さんはいかがですか？何かを追いかけよう！そうすれば時は止まる。時を楽しめる！時を止め自分の力で時と遊んでみよう！仲間と一緒に活動してみませんか？」

防災会の 仕事に思うこと

松南地区防災会
会長 中野 豊

防災会に係わり早や4年目を迎え、これまでの任期中何事もなく過ごしております。そのことを喜んで良いのか、自分は皆さんの役に立てているのかと自問しています。

松本市、いや信州は高い山に囲まれている為か、台風の影響は比較的少なく済んでいると感じます。しかしながら少しずつ平均気温も高くなり、集中的に降る雨による被害も少なくありません。

平成7年7月の小谷村豪雨、平成18年7月の岡谷市漆地区の土石流、平成26年7月の南木曾町の土石流等忘れることが出来ません。全国各地で毎年大きな災害が起きています。しかし、松本で水害の予想は少なく感じますが、一番心配なことは何の前触れもなく起きる地震です。「糸魚川―静岡構造線」の上に位置する松本市です。最大M8.5、最大震度7が予想されています。私達は何をすれば良いでしょうか。もし、地震が起きたらと想像して下さい。自分が寝ている近くに大きな



家具がありませんか。家具や電化製品は壁にしっかりと固定されていますか。自分の命は自分で守る努力をしましょう。もしも自分が怪我をした倒れたら大切な家族を守れません。そして、最低限の防災グッズを備えることも大切です。また、家族全員が3日程度の食料や水の備蓄も必要です。更に日頃から避難所へ行くルートや家族が落ち合う場所を話し合うことも大切です。私達防災に携わる者の力は微力です。

日頃から皆さんが意識して下さることが一番大切です。これからも防災の活動に深いご理解とご協力を宜しくお願ひします。

若者の居場所づくり 若者カフェの設置と 今後への期待

なんなんホーム
所長 中山 典明

青少年ホームは、若者が気軽に集まれる魅力ある居場所づくりを通じ、自分づくり、仲間づくり及び社会参画を進めています。

若者の現状を見ますと、ひきこもり状態にあつたり、周囲と十分なコミュニケーションが取れなかつたりして、社会的に孤立する若者もおり厳しい状況にあります。

このような若者の現状を踏まえ、安心して居心地が良く、社会とのつながりが持てる居場所の必要性を感じ、令和元年7月7日(日)にカフェをなんなんひろば談話喫茶室に開設しました。

若者カフェは、気軽に立ち寄り、自由に過ごし、交流及び情報交換できるフリースペースとして、毎週日曜日に無料で利用していただけます。

今後は、若者カフェで若者の要望を聞いて講座を実施し、若者同士の交流を促進し、自主的に情報発信できるスペースになることを期待しています。

若者が成長し、持てる力を生かして社会で活躍できるように寄り添って応援していきたいと思ひます。



なんなんひろばを 学習室に開放

小中学生の夏休みの間、小学4年生から高校・浪人生までを対象に、学習の場として公民館の一室を開放しました。

今年の開放日は23日で、延べ人数は小学生51名・中学生118名・高校生が28名で、総数では197名が利用しました。



また複数回利用する人が半数を超え、10日以上通った中学生が3名、1日平均8.6名が利用し、通う人も年々増える傾向にあります。

当初、一室の長机が置かれた場所でも幅広い年齢層の人達が、静かに集中して学習ができるのかと案じました。しかし、年上の人達が熱心に自学する姿に集中力の欠けがちな小中学生も感化されたのでしようか。静かな環境の中で学習する姿が常に見られました。

eスポーツとは どんなスポーツ?

『eスポーツ』(e sports)とはいったいどういうものかご存知でしょうか。昨今『eスポーツ』というワードが急上昇しています。広告やメディアでも『eスポーツ』という文字を目にする機会が増えていきます。そこでeスポーツとは何なのかを紹介したいと思います。

eスポーツとは『エレクトロニクス・スポーツ』の略称です。電子機器を用いて行う娯楽、競技、スポーツ全般を指す言葉であり、コンピュータゲーム、ビデオゲームを使ったスポーツ競技のことを指します。簡単にいうと複数人のプレイヤーで対戦するゲームをeスポーツと呼びます。アメリカではすでに国が『eスポーツ』を『スポーツ』として認めており、『プロゲーマー』が『スポーツ選手』であることを認めています。また韓国や中国でも非常に発展しており、市場規模も日本とは桁違いです。

ゲームが好きな私としては、これからの日本での発展が楽しみな注目の競技です。

(大澤 憲水)